第２回　長野県 ICT 学び推進協議会　議事録

R5.8.31
学びの改革支援課

１　日　時
令和５年８月 31 日（木）　13：30～15：00

２　実施方法
Web 会議による

３　参加者
【信州大学】東原名誉教授、島田教授、佐藤准教授、両川公認心理士
【飯田市立遠山中学校】田中校長　【青木村青木中学校】箕田校長
【小川村立小川中学校】小林校長　【箕輪町町立箕輪西小学校】山本校長
【長野市立朝陽小学校】舞澤教諭　【佐久市立中込中学校】瀬下教諭
【長野市教育委員会】末松様　【須坂市教育委員会】北村様
【佐久市教育委員会】菊池様　【上田市教育委員会】籔様・西原様
【松本市教育委員会】上兼様　【塩尻市教育委員会】島津様
【飯田市教育委員会】櫻田様　【小海町教育委員会】中島様
【箕輪町教育委員会】小林様　【喬木村教育委員会】長坂様
【根羽村教育委員会】下井様　【安曇野市教育委員会】矢野様
【駒ケ根市教育委員会】滝澤様　【小諸市教育委員会】竹内様
【長和町教育委員会】宮坂様　【南箕輪村教育委員会】本間様
【高森町教育委員会】伊藤様　【池田町教育委員会】塩川様
【学びの改革支援課】宮沢主任指導主事、松坂指導主事、五味指導主事、秋元主任
【北信教育事務所】宮崎指導主事　【東信教育事務所】白井指導主事
【中信教育事務所】上本指導主事　【南信教育事務所】佐藤指導主事
【総合教育センター】岡宮専門主事
【ＤＸ推進課】永野課長　【教育政策課】赤羽主事
【心の支援課】傳村指導主事　【特別支援教育課】大日向指導主事
【長野県自治振興組合】木我様

４　内　容

（１）　開会あいさつ

【宮沢主任指導主事】

・７月に文部科学省から、「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」が発表された。それについても本協議会で扱う予定。

・４月に行われた全国学力・学習状況調査の学校質問紙調査、児童生徒質問紙調査の結果を見ると、長野県の ICT 機器の活用頻度は、改善されてきている。

・「ほぼ毎日使う」「週３回以上使う」と答えた小学校、中学校は９割。前年度よりだいぶ改善をしている。しかし、考えをまとめてやり取りするところでの活用は課題も見えてきている。地域や学校間での活用の差があることも結果から感じている。

・第１回の協議会では、「子供たち全員が問題発見、解決の過程でクラウドを活用できる」という目標を設定いただいた。２学期に入り授業での ICT の活用を進めていきたい。

・長野県教育委員会としては、この秋に全ての教職員が参加する教育課程研究協議会において、クラウドを活用したモデル事業を提案し、実践をまとめて情報発信をしていきたいと考えている。

○担当からの説明

【五味指導主事】

＜生成 AI の利用に関する暫定的なガイドラインについての情報交換会実施報告について＞

・７月４日（火）に出された初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドラインでは、有効な活用場面を検証しつつ限定的な利用からスタートし、個人情報保護、セキュリティ、著作権などに十分留意して成果と課題を検証していくこと、情報のファクトチェックを促進し、情報活用能力を育む等、基本的な考え方が示されている。

・本県では、７月 28 日（金）に、生成 AI の利用に関する暫定的なガイドラインについての情報交換会を実施。文部科学省初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチームの方たちに参加頂き、ガイドラインについて全県に周知。

・市町村教育委員会は悉皆で、また、小中高の先生方は希望者で募集したところ、72 名参加。アーカイブ希望を合わせると 130 名以上が参加。感想からもガイドラインについて理解を深める有意義な機会となった。

＜令和５年度全国学力・学習状況調査「学校質問紙調査」「児童生徒質問紙調査」の ICT に関する質問の回答状況について＞

・４月 18 日（火）に行われた令和５年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙調査の ICT に関する質問の回答状況から分析を行った。

・児童生徒が端末を授業でどの程度端末を活用したかという質問では、小学校は、昨年度と比べて 13％上昇し 89.5％。中学校では、昨年度に比べて８％上昇し 93.5％。活用が伸びてきている。児童生徒が自分で端末を活用して調べる場面でも活用が伸びてきている。

・児童生徒が自分の考えをまとめ、発表を表現する場面での端末の活用は、小学校は昨年度より 10％ほど上昇し 42.2％、中学校は７％ほど上昇し 52.4％。

・児童生徒同士がやりとりする場面での端末の活用は、小学校は 14％ほど上昇し 39.7％、中学校

では７％ほど上昇し46.0%。

＜GIGAスクール構想をけん引するDXリーディング校・リーディングDXスクール事業＞

・指定校となっている須坂市立東中学校、小川村立小川中学校、箕輪町教育委員会は、有識者の訪問、県外視察、各種の研修会の参加等を通して、授業実践・研究に取り組んでいる。

・次のステップとしてマルチアングルで撮影した授業動画を制作して、全県に発信していく。

＜ICTやクラウドの活用が進んでいない市町村への手立てについて＞

・各事務所のICT担当の指導主事で構成するICT部会でヒアリングを行い、課題や困り感を共有。市町村教育委員会の担当者と研修の実施など連携を強化して繋がっていくようにしたい。

・クラウド出前講座や各事務所の学校訪問等、研修で繋がりを構築し、情報共有しながら進めていく。

（２）協議（司会：島田教授）

１）GIGAスクール構想の実現に向けた最新情報

【東原名誉教授】

・文部科学省は、生成AIについてオンライン学習会を開催。アーカイブも用意されている。有効にご利用いただきたい。連続オンライン学習会の内容については追記される予定。

・市町村で予算を取り、GIGAスクールの標準的な仕様プラスアルファの教材等の活用事例について。１年間、使用した成果から、よく使用している学校では下位層はなくなり、まあまあ使用している学校ではやや下位層が残り、あまり使用していない学校では下位層がだいぶ残っている。副教材を含むICTの活用の度合いによって、全国学力・学習状況調査の結果も点数の違いが見えてきていることが報告されている。下位層の子供たちに効果があることが分かってきている。

２）活用型情報モラル教材GIGAワークブック信州について

【傳村指導主事】

・これまではトラブルを避けるためにICTにブレーキをかける教育が行われることが多かったが、ICTを積極的に使っていくことが社会全体で求められ、学校でも授業内外で積極的にICTを使うために必要なことを身に付けていく方向に変わっている。また、情報モラル教育では、外部の講師による一斉指導の形が多かったが、これからはそのような指導に加えて、日常の授業の中で、ICT機器の使い方と同時に、活用する力やリスクに対応する力を育てていく。現場の先生から「教材があったらありがたい」という声を受け、GIGAワークブック信州の制作に至った。

・GIGAワークブック信州は、長野県独自のページと全国共通のページで構成されている。全国共通のページはLINE未来財団と静岡大学の塩田准教授が共同で製作。児童生徒がネットの特性や問題点を理解し、トラブルが起きた場合の対応を自ら考えることができ、先生たちが授業でそのまま使える教材。長野県教育委員会のホームページからダウンロードできる。

・授業での活用方法について、LINE未来財団から講師を招いてオンラインの研修会を開催。10月17日（火）に２回目を開催する予定。

３）市町村教育委員会や現場の先生方よりGIGAスクール構想実現に向けた取組の共有

【飯田市立遠山中学校・田中校長】

・飯田市では夏休み中に、教員のICT活用の研修を開催。東原先生の基調講演や、基礎的な内容から

発展的な内容の講座を選択する形。

・遠山中学校では、授業中、机上にタブレットがあり、分からないことを調べたり、ジャムボードやスプレッドシートを共有し合ったりしている。また、他の地域と繋がるための活用も進めている。昨年度は、天竜中学校とメタバースを使って数学の授業を一緒にやり、自分たちの考えを共有した。

・校務についての活用では、教科担当が１人なので、山間地の他校とクラスルームで情報共有を行い、教科会を実施。

【青木村立青木中学校・箕田校長】

・１学期に学びの改革支援課にサポートをお願いし、「２学期の終わり頃に子供たちがどんな姿になっていればいいか」を思い浮かべながら職員で話し合ってみたらどうかとアドバイスをもらい研修を実施。「30 分追究をして、振り返り５分は必ず取りましょう」、というようなスローガンを作る。 先生と生徒、みんなでスローガンにむけて取り組みをはじめた。

【小川村立小川中学校・小林校長】

・協力校の信州新町中学校と汎用的なアプリを使って授業をしている。お互いが必要感のある課題を設定できる題材、授業の内容が必要であることがわかった。

・ICT を活用して、手で書ける程度の情報量ではなく、今までの授業を上回る情報量で生徒たちが自分で考えていくような授業が必要。

・本校で考えているのは、情報活用能力を高めていくということと、表現力を高めていくこと。教頭や教務主任が率先して進めていく。

【箕輪町立箕輪西小学校・山本校長】

・箕輪町が主体となって、５校の小学校と１校の中学校で進めている。町に DX 推進センターがありサポートティーチャーの佐藤先生を中心に、連携を取りながら推進。

・愛知県春日市の高森台中学校を視察。

・６月の終わりには、公開授業を行い、授業づくりの方を中心に進め ICT の活用に繋がることを学んだ。12 月にある公開授業も町全体で学びを深めていきたい。

【長野市立朝陽小学校・舞澤教諭】

・ICT のミニミニ研修を毎回重ねている。ICT が苦手な先生もやれそうなコンテンツを見付けて、少しずつ取り組んでいる。クラウドの活用に関しては高学年が中心。その高学年の中でも先生の中で差がある。

・授業支援ソフトの未来シードを活用する先生が多い。授業研究会があるときに研修を進めていきたい。

・著作物の利用、引用のルールについて悩んでいる。正しい情報はどれなのか、どこまで使っていいのかが分かっていない様子。ネットに書かれている内容をそのまま自分の意見としてコピー＆ペーストする児童もいた。正しく安全に使っていくことが課題。情報モラルに関しては、GIGA ワークブック信州を使用できるように準備する予定。

【佐久市立中込中学校・瀬下教諭】

・タブレットの活用は広がり、情報モラルの学習を月に１回行う。ネット社会の歩き方の教材に取り組んでいる。

・振り返りのまとめを生徒昇降口に掲載し全校で共有することもはじめた。
・授業の振り返りでGoogleドライブとURLのリンクを使って集めている。集めた振り返りはテキストマイニングを使って可視化。

【長野市教委・末松様】

・夏休みにICTの研修を実施。教科会での研修に加え、市主催や学校区での研修会が増えてきている。同じ学校区の小学校と中学校でどんなソフトを使っているのか、どういう学びをしていくのか合わせていく形の研修会が増えてきている。校務のところでは、教材の共有だけに限らず、研究会に他校の先生方が関わるなど工夫している。
・情報モラル面での課題も少しずつ出てきている。GIGA ワークブック信州などを使いながら進めたい。

【須坂市教委・北村様】

・夏休み中に教育クラウドを活用しようと題して講習会を実施。北信教育事務所の指導主事を講師に20名の先生が参加。１人１台端末を使った共同編集のやり方を学ぶ。
・デジタル教科書の研修では、教師が意図的に子供に使わせるのではなく、問題解決のための手段として子供が自ら選択できる力を育てるにはどうしたらよいかについて考えた。また、先生方の実践から学び、デジタル教科書を中心に授業のどんな場面で使ったのか、その時の子供への効果はどうだったか、また、その機能に込めた教師のねらい等について語り合った。
・昨年度の目標「子どもたち全員が、クラウドによる同時共同編集により、意見交換ができる」については多くの学校がクリアしている。ただ、日常的に使っている学校とそうでない学校の差がやはり大きい。日常的な普段使いができるように支援したい。
・指導主事という立場で各学校を訪問し、授業等に参加している。１人１台端末の活用状況を見たり、学校の課題等について相談を受けている。今年度は問題解決の過程の中で、小学校低学年でも活用できるような状況を実現していきたい。

【佐久市教委・菊池様】

・課題になっている学校間、校内での先生の差について、７月の市の校長会で、佐久市の端末利用の状況や市内の学校での端末利用の事例について紹介。中学校区ごとに校長先生方に集まっていただいき、各校の実践や課題を共有。課題解決に向けた手立てを互いに考え合った。校長先生方は、自校の教頭先生にも情報共有。
・８月の市の教頭会では、中学校区のグループで校長先生から伝達された内容を踏まえて、２学期の授業作りに絡めた ICT 利用について話し合った。秋に向けた事業研究会などで生かしていけるように、市としてもサポートしていきたい。

【上田市教委・籔様】

・夏休み中、上田市情報教育の研修会を開催。市内の200名を超える先生方が参加。実践事例の発表や、著作権についての研修、講演会等を行った。
Chromebook を使った操作研修を３日間にわたって、５つの講座を開く。130 名ほどの先生方が参加。
・２学期は、実際に授業で、先生方に学んでいただく機会を計画している。

【松本市教委・上兼様】

・子供のやり取りの場面での効果的な活用、導入、まとめ、振り返りでの活用、活用が進まない学校や先生方の格差を埋めるキャッチアップを行った。
・ICT 支援員と連携して端末活用資料を作成している。資料は単元に分かれていて、導入、まとめ、振り返りの活用事例や、子供が各自で進められるサイトをまとめた端末活用資料を先生方の ICT 端末のデスクトップ上にショートカットを作成し、先生方がいつでも見られるような状況を実現。使った先生方のフィードバックから更に改良していく。
・松本市の教職員の研修センターの講座として、ICT の活用方法、情報モラルについての研修内容について検討しており、アンケートを取りながら、情報セキュリティについて研修を進めている。

【塩尻市教委・島津様】
・塩尻市では、小学校、中学校とも、端末の活用率は上昇してきている。
・夏休み中に研修会を実施。ICT 活用、情報モラルなど複数の講座を用意したところ、希望研修だったが延べ 370 人の参加があった。２学期からの活用に向けて研修を進めた。
・学校間格差は有り、ほぼ毎日使うという活用率が 90%の学校もある一方、活用率が１桁という学校もあり課題。
・２学期は、より効果的な活用に向けて、各校の ICT 主任や ICT 支援員さんたちと事例共有しながら推進していく。
・事務の部会、養護教育部会、栄養士の部会の先生方から、ICT の活用を進めたいと研修が多くなってきている。市全体として取り組んでいきたい。

【飯田市教委・櫻田様】
・今年度、Web 上にサポートサイトを立ち上げ、チャットを使用するようになった。全国学力・学習状況調査の質問紙調査でも、サポートに関して肯定的な回答が増えた。
・同意書はフォームで取って、クラウド上で管理。破損が増えてきたのでチラシを出すなど工夫。二段階認証を必須にして情報漏洩対策に取り組む。Windows のサポート更新等を行なった。
・夏休み中のアクセスログを分析。例えば、自殺というワードを検索している子どもがいる状況がわかり、２学期のはじめに学校と共有する。
・端末の持ち帰りの状況も、クラウド上で申請してもらうことで、学校同士が他校がどのくらい持ち帰っているか見られるようにするとともに、飯田市教育委員会でも把握している。
・生成 AI に関するチラシを夏休み前に作成し、独自で周知を行った。
・Canva の自治体登録を行ったり、東原先生に各校を回っていただき研修、アドバイスをいただいたりしている。
・デジタル教科書については、英語科の指導主事と共に研究中。デジタル教科書の活用で自信を持って言える英単語の数が大幅に上がった。下位層、中位層の子どもの伸びが見えてきた。子どもが、自分で授業を進めていると思っている割合が上がってきている傾向。
・GIGA ワークブック信州を共有していただいた。今後、情報モラル教育、情報活用能力の向上に役立てたい。

【駒ヶ根市教委・中島様】

・駒ヶ根市の小学校では、ICT を利用した授業は、電子黒板で、指導者用のデジタル教科書を使うというのがメイン。１人１台端末については、調べ学習や共同編集のような場面で利用する形。
・令和４年度末に、家庭用に持ち帰るための電源ケーブルを、学校用とは別に整備した。端末の持ち帰りについては、これから徐々に拡大していくと思っている。

【箕輪町教委・小林様】
・箕輪町では昨年度から町の教育委員会に教育 DX センターを設置。技術者１名と ICT 支援員２名を配置。教育内容や様々なサポートについて対応。学校現場のニーズ、困り感が直接教育委員会にも伝わってきている。
・昨年度に続き、今年８月にも愛知県春日市へ研修行き、授業での活用だけでなくて校務での活用について学び、できることから取り組む。学校間で取り組みを共有。

【喬木村教委・長坂様】
・リーディング DX スクールに、村独自で申請し指定校として取り組む。
・本村では、VUCA の時代を生き抜く力ということを村全体の研究テーマとして据えて、それを基に各校が、研究テーマを作成。全員が同じ方向を向いて取り組めるような形で進める。その中で、対話的な学びを充実させていくことをテーマにして、東原先生にご指導をいただいている。
・全校学力・学習状況調査の質問紙調査の回答から、活用状況としては、問題なく活用が進んでいる状況。各学校からの回答に関しても、児童生徒がやりとりする場面も、ほぼ毎日という回答が、半数以上。さらに取り組みを進めていきたい。
・実際の活用では Google チャットを活用して、小学校が２校間で、合同行事の打ち合わせをしている。対話的な学びの充実にむけて、低学年からスプレッドシートに自分の考えを入力し、友達の考えを参考にしながら、自分の考えをより深めていく取り組みを進めている。
・全体の研修はもちろん、先生一人一人と日々の取り組みを基に行う個別の指導がとても効果的と感じている。全体の方針に向かって先生方と個別に話をしていく。

（４）充実した利活用に向けた取組

１）「日本デジタル教科書学会第 12 回年次大会（信州大会）から」

【佐藤准教授】
・デジタル教科書学会が信州大学で行われた。デジタル教科書学会では、文部科学省の武藤リーダーと、東北大学大学院教授の堀田龍也先生に来ていただいた。
・武藤リーダーからは、教師による一斉から子供主体の学びにしていくこと、同一学年ではなく、学年を超えていくこと等が、これから求められていくというお話。
・堀田龍也先生からは、教師が教えるというだけではなく子供が学習方法を決めていくことなどが必要といったお話。

２）「国のリーディング DX スクール事業の県内の取組について」

【佐藤准教授】
・文部科学省のリーディング DX スクール事業について、須坂市立東中学校の事例を紹介します。元々、東中学校は、単元内自由進度学習をやっており、そこにクラウドがきちんと乗っかってきている印象。まず初めに、学習の手引きを先生が示して、生徒は、これを見ながら進めていく。その時にク

ラウドが色々生きてくるという立て付け。当日の授業は音楽。一人あるいはペアでやることを、自分たちで判断をして、取り組んでいる。

・子供に委ねていく時に、大事なのは手引きを示すこと。手引きがあると子供に委ねやすい。それから、自分で計画するという段階に移行し、手引きを工夫し進める段階となり、自分で計画できる段階に行く。まずは、手引きを見せて、子供なりに解釈して、子供なりに進めてみる。その中で、子どもたちが悩むことがあっても、どう工夫して、子供たちを支援したらいいのか、その基盤にクラウドがあると認識できるとよい。

・子供自身が、自分の最適な学び方で学んでいくようになればよいと考えている。

３）特別支援教育課（現状の取組について）

【大日向指導主事】

・令和５年度 ICT インクルーシブ教育推進部会では、今年度の ICT 学び推進協議会の目標である「子どもたち全員が問題発見・解決の過程でクラウドを活用できる」を意識して進めていく。特別な支援を必要とする児童生徒が、クラウドの活用により持てる力を最大限に発揮できるということ、合理的配慮としての ICT 活用により、特別な支援を必要とする児童生徒が、集団の授業場面で自ら学習に取り組むことができることを狙う。

・部会では、全ての子供の可能性を伸ばすこと、充実した学習ができるように誰もが情報活用能力を身に付けられる環境を整えること、 特別支援教育で必要とされる時期の選定と活用に関わる情報を伝えるなどインクルーシブ教育推進部会の理念に基づき、協議し実践を進める。

【両川公認心理士】

・冒頭で東原先生からお話があったように、成績が思わしくないような子供たちが、ICT の活用によっていなくなってきたことが、特別支援教育では朗報なのではないかと考えている。クラウドを活用することによって、教室が異なっても遠隔で参加できることもあるので、ぜひ先生方にご理解とご支援を引き続きお願いしたい。

（５）今回のまとめと次回検討項目の整理

【島田教授】

・別の観点からお話しすると、企業の人事の方とお話した中で、企業でも同じような悩みがある。企業の研修においても、詰め込みでやってきた人たちもいて、それを変えようという動きが大きい。

・学び方を学んで、多くの子供が産業界に出ていくわけなので、その産業界でうまく適用できる子供を育てることが大事。ここで、色んな取り組みをされているのが、将来的に産業界に繋がり、産業界で悩んでいる人たちも、うまくいくと感じた。様々な取り組みを続けていくことが、社会全体にとって大切であり、社会全体の中の位置付けとしても、すごく重要なことである。

（６）閉　会

【宮沢主任指導主事】

・お集りの皆様には熱心な協議をいただき大変感謝。
有識者の皆様からの最新の情報、参加者の皆様からの最近の取り組みや課題を発表いただいた。長野県下で、様々なことを取り組み、もうちょっとやってみたい、こういうこと知りたい

というきっかけになっていただければ幸い。

・引き続き、長野県の教育の発展のためにご尽力いただくよう、よろしくお願いしたい。

連絡

【松坂指導主事】

・市町村及び学校から、本会の先進的な協議をぜひ公開してほしいというリクエストがだんだんに増えている。また、GIGA スクール運営支援センターを県域で有効に活用していくためにも、このような議論を広めていきたいと考え、次回は、アーカイブも含めて流せるように、工夫し公開していく予定。事前にご承知おきいただき、３回目の２月もよろしくお願いしたい。